

しずおか 県民児協だより

〔題字：第54代静岡県知事 石川嘉延 書〕

20

第20号
平成22年9月1日発行

編集発行／静岡県民生委員児童委員協議会 〒420-8670 静岡市葵区駿府町1-70 静岡県社会福祉協議会内 Ⅱ054-254-5224 Ⅱ054-251-7508

地区民児協の 機能強化を目指して



KJ法によるグループ演習



地域福祉懇談会全体会

これからは、これらの福祉アンケート調査や福祉懇談会で出された意見・課題を踏まえながら、この指定民児協活動の集大成としての「地域福祉セミナー」を地区内の二つの地区社協と協働して実施していくこととしています。

次に、地区内の二つの単位自治会を選定し、当該自治会や地区社協、市社協の協力のもと、多数の地域住民の参加を得る中で地域福祉懇談会を開催しました。特に第2回目の懇談会では、「KJ法」によるグループ演習を行い、「福祉問題解決にトライ！」したことは、大きな成果であったと考えます。

第一に取り組んだ活動は、地区内の一人暮らし高齢者、夫婦のみ高齢者世帯など、500世帯に対する福祉アンケート調査です。その眼目は、一人暮らし高齢者などが地域に対し、どのような福祉活動・サービスを期待しているかを問うものであり、「通院・買い物時の送り迎え」や「心配ごとなどの相談窓口の設置」などの多くのことが提案されています。

私たち協議会は、県民児協から指定を受け、「研究地区民児協」としての活動を展開しています。そして、この指定民児協活動の取組目標を「地区民児協の機能強化と福祉のまちづくり」とし、更に具体的なテーマを「高齢者の日常生活上のニーズ把握とその対応を考える」と定めました。

磐田市南部地区民生委員児童委員協議会
機部 幸宏

平成22年度静岡県民生委員 児童委員協議会総会あいさつ

会長 天野 隆玄

期日 平成22年6月1日(火)
場所 グランシップ会議ホール「風」



全国的に後継者難との声もあります。前回の改選期(平成19年)では、全国で4819名もの欠員がありました。

今回も、民生委員・児童委員の活動状況を説明すれば、きつと戻込みされる方が多いと思われる。しかし、民生委員・児童委員冥利を味わっていただき、民生委員・児童委員の仲間同士で、また要支援者と喜びを分かち合い、民生委員・児童委員としての喜びを得ていただけるよう、皆様方の御指導をお願いしたいと存じます。

本日は、大変御多用のところを多くの皆様方に御出席いただき、誠にありがとうございます。そして県民児協及び全県児連の運営に御支援と御尽力をいただき、この場をお借りしまして厚くお礼を申し上げます。

また、静岡県健康福祉部の石川部長様をはじめ、御来賓の皆様には、公務御多用の中を御出席いただきありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

さて、本年は、民生委員・児童委員の一斉改選の年であります。

話が少し変わりますが、私たちが10代続いたとしたら、単純計算で1024人程度の人のお世話になっっているそうです。私たちに両親がいて、その両親にも、それぞれ両親がいるというように計算していくと、それくらいの人から無償の愛を受け、お世話になっっているそうです。自分だけで生きている、自分自身がこれだけ活躍していると錯覚に陥るときもあるわけです。でも、その立場をよくわきまえてみると、人に育てられ、あるいは、人に支えられて今日があるということは、否め

ない事実であるわけです。ならば、自分も還元の意味も含めて、「路傍の石」にも出てきますが、

○この世界で、たった一人しかない自分だから

○たった一度しかない人生だから
○本当に生かされたら、人間生まれてきた甲斐がないじゃないですか。

そのような生きてきた証を残すには、民生委員・児童委員を務めていただくのが早道であり、務め甲斐がある役職でもあると思います。

また、これからの経済は、日本にとっても大変な試練のときがくると言う専門家がいらつしやいます。属に言う近代工業社会、いわゆる物に埋まって生活することが本当の喜びであるという考えが今まで慢性化してしまいました。これからは、知能社会、言い換えれば喜びの度合によつて、幸せというものを味わうことだそうです。わかりにくいと思いますが、例えば、おいしいものを食べると、次もまたおいしいものを求めたくなります。まずいものを食べたときより、おいしいものを食べたという満足感、これは幸せであることには間違いありません。しかし、仮に山などにやって食べる時を失った時、お腹が空いた時など、1個の梅干しか入っていないおにぎりをひと口食べたときのおいしさを、皆さんも経験がおありの方が多いと思います。あのひと口のおにぎりのおいしさ、これからの価値観をそういう中に求め、みんなが支え合

っていかないとならないときであろうと思います。この1、2年が日本の生き残りを問われる試金石ではなからうかと言われています。先進国として残れるか、あるいは後退せざるを得ないかの時期が訪れるのではないかと言われています。これは、年寄りの冷や水であつてほしいし、こんなことがあつては困ります。しかし、一般的に若い方は物に埋まる幸せを求める、このごろはそういう人たちが育っています。

さて、皆さんも経験がおありかと思いますが、改選ごとに民生委員・児童委員の気質が変わつてきているように思います。民生委員・児童委員活動は、先輩たちが創つた民生委員・児童委員活動の歴史というものを、そして味わいというものを保ちながら、次の時代の人に伝えることが我々の大きな役目の一つでもあるわけです。静岡県では、笠井信一翁が民生委員の生みの親であると同時に、現在の生活福祉資金貸付制度といいますが、世帯更生資金貸付制度は静岡県の民生委員の先輩たちから始まりました。そういう歴史等々を踏まえ、静岡県の民生委員・児童委員の一人ひとりが「1足す2は3」の働きではなく、それにプラスアルファの心の温かさで包み込んだ働きこそが民生委員・児童委員独特の務めであると思います。そのためには、士気を高める必要があらうかと思っています。

民生委員・児童委員の「3つの活動の原則」の一つに「住民性の

原則」がありますが、住民の立場に立った活動を非常に重たいものと感じました。住民の立場に立った活動、そして、やりがいのある活動、民生委員・児童委員活動はこの2つに尽きると思います。この2つの活動を充実するには、八方すべてのことをできるだけ入手し、情報を豊かにし、そしてお互いに研鑽し合い、一人でも多くの人に喜んでもらえるような活動が我々の役目ではなからうかと思えます。

こんな話をしておりますと、時間がございませぬ。この後は、平成21年度の事業報告と決算、平成22年度の事業計画と予算の御審議をお願いすることとなっております。いろいろな角度から、そして皆様方の豊かな経験と英知をもちまして、この県民児協がますます向上できますよう、お知恵と体験をちようだいでできればと願う次第でございます。何分どうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございます。

障がい者と民生委員・児童委員との 理解を深めるために

静岡県手をつなぐ育成会 会長 小出 隆司

民生委員・児童委員の皆様には、日々、私たちの身近で温かい御支援をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、手をつなぐ育成会ですが、昭和27年に3人の母親が、知的障がいのあるわが子のしあわせを求めて、全国の仲間の親たちに、手をつなぎ、施策の充実を求めようと呼び掛けたことがきっかけで、47都道府県すべてに「手をつなぐ育成会」が結成されました。現在、会員は全国で約29万人（うち賛助会員10万人）です。静岡県手をつなぐ育成会は、県内全市町に44の

地区育成会があり、正会員数は全国で3番目の6千300人となっております。

知的障がいの理解は触れ合いから

民生委員・児童委員の皆様から「高齢者や車いすを利用して障がいのある人はわかるが、知的や精神に障がいのある人は、当事者から伝えてもらわないとわからない。目で見かけることもない。」とよく言われます。

それは、民生委員・児童委員の皆様が主にお住まいの地域で活動

するのに対し、多くの知的障がいのある子どもたちは、自宅から遠く離れた療育施設、小・中学校、特別支援学校に通っているからです。

就学免除・就学猶予の制度が廃止され、養護学校が義務化になり、学校に行けるようにはなりましたが、特別支援教育を行う学校の設置は限られております。このことは、地域の人たちとの触れ合い、まして長い人生を共に送る同世代の子どもとの触れ合いを奪っております。また、一般の子どもも、多感な少年期において障がいのある子どもと触れ合うことなく、大人になっていきます。知的障がいは、ほかの障がいと異なり体験ができません。学校などで一緒に生活して触れ合うことでしか理解することができないのです。

多くの人は、知的障がいの人の支援をしたいけれど、どのように接したらよいかわからない。また、障害のある人は何をするか分からないので怖いといわれます。いわゆる「無知の恐怖」です。

手をつなぐ育成会では、子どもたちの将来の自立と社会参加を実現できるように、地域の学校に通い同世代の人たちと一緒に成長することを目指して、活動しております。

福祉の眼差し

平成の大合併により、静岡県では74市町村が35市町になりました。このことにより障がいのある人た

ちにとって危惧する問題が発生しております。それは、多くの地域から首長や議員、役所や社会福祉協議会がなくなり、子どものことを生まれたときから知っている保健師がいなくなつたことです。

合併による広域行政は、障がいのある人たちが必要とする資源を地域から遠退かせました。実は、高齢者の介護サービスや障害福祉サービスの利用は、契約制度になつており、特にケアマネージメント制度のない障害福祉サービスの申請や契約は、当事者が行わなければなりません。そのため、福祉サービスを知らない、手続きがわからない人たちにとって、社会的な排除が生まれることが危惧されます。

しかし、そのような状況の中において、地区の民生委員・児童委員の皆様がいてくださることに心強さを感じます。福祉とは、おせっかいで鬱陶しいものです。自分たちにとって都合の悪いことも知らされ、世話を焼かれたり、文句を言われたりして不愉快な思いをしなから、それでもいざというときに助け合う人間関係が醸成されていく。それが福祉の危機管理です。どんな障がいがあっても深く温かい視線を注ぐ。それが福祉の眼差しだと思います。

手をつなぐ育成会は、地区の民生委員・児童委員の皆様は今までも以上にお世話になると思います。今後ともよろしくお願いいたします。

主任児童委員として 民児協会長として

清水町民生委員児童委員協議会 会長 鈴木 通保

主任児童委員としての私

平成6年1月1日、主任児童委員制度発足と同時に委嘱され、今年で17年目を迎えました。以下、主任児童委員としての主な歩みを時系列で振り返ってみます。

平成6年8月23日～24日

主任児童委員初の大仕事として、全国主任児童委員研修会（東日本）に県民児協の参加者10人の中の一人として参加。主任児童委員制度誕生直後のこと、主任児童委員の役割に疑問百出。「連絡調整だけでいいのか」「どこまで立ち入れるのか」「行政がもっと主任児童委員制度をPRして」等々。ほとんどの委員が混乱状態でした。

平成7年5月9日

1期2年目。次の大役。児童福祉週間に静岡県東部児童相談所の一日所長を務めました。今では周知されている「虐待の連鎖」という重い事実を学んだのもこのときでした。虐待が増加の兆しを見せ始めたころのことです。早速全委員

さんに報告したものでした。

平成7年7月4日

新世紀創造に向けて、東部地域懇談会「庄田 武・静岡県副知事と語る会」の質問者に。教育、歩道・自転車道の整備等発言の機会をいただきました。

平成10年11月30日

地区民生委員・児童委員との任期統一のため、主任児童委員の2期目は、1年11か月でいったん解職となりました。

平成10年12月1日

地区担当民生委員・児童委員と主任児童委員の委嘱日をそろえて全国一斉に新任期がスタート。私は、ここから3期目に入りました。

平成11年5月1日

3期目の半年後。普及し始めたパソコンで何か役に立ちたいと、「清水町子育て支援施設一覧」と「悩み事・困りごと相談窓口一覧（初版）」を作成（後記「カンガル」HPから御覧いただけます）。ほかの2人の主任児童委員と役場で印刷、仕分け、町内各公共施設

に配置。主任児童委員会、児童母子支援部会の協働、福祉課監修、現在、毎年更新中。委員の訪問活動時の持参資料としても活用しています。

平成13年7月11日

3期目の3年目。男女共同参画社会づくりを考える「北井久美子・静岡県副知事と語る会」のパネリストに。「親学」の必要性を訴えました（遅ればせながら平成22年2月、西小学校での入学説明会で「親学」講師を務めました）。

平成13年12月1日

4期目。児童母子支援部会副部長に就任

平成14年11月10日

児童母子支援部会の活動の一環として、町母子福祉会のテーマソング「Hang in There! がんばって」を作詞作曲、「第56回関東地区母子寡婦福祉研究会」にて駿東郡の母子約40人で披露（歌詞は「しずおか県民児協だより第18号（平成21年9月1日発行）」に掲載）。

平成15年4月1日

主任児童委員3人が「清水町子育てアドバイザー」に委嘱されました。清水町地域親子ふれあいランド「カンガル」で地区公民館を月2回巡回、未就園児と親、妊婦さん対象の相談・支援活動。地区民生委員・児童委員にも協力依頼。

機会あることに全員で歌っています。

平成16年7月16日

4期目の3年目。清水町地域親子ふれあいランド「カンガル」のテーマダンス曲「びつくりソング」を作詞作曲。

平成16年8月13日

清水町地域親子ふれあいランド



●図1「カンガル」のホームページ

「カンガルー」のホームページ
<http://shizuoka.cool.ne.jp/mikooya/> (図1参照)を立ち上げ、管理人に、

毎回の活動写真や次回開催の告知・各種情報等、現在も更新作業を継続中。是非、御覧ください。

平成16年12月1日

5期目。児童母子援助部会部長就任

平成19年12月1日

6期目。清水町民児協会長に就任、現在に至る。

民児協会長としての私

「主任児童委員も民生委員なの？」

「主任児童委員が民児協会長になる資格があるの？」といった誤解や理解不足が一部にあるようですが、前回の改選時、町民児協の会長に推挙いただき、間もなく1期3年が過ぎようとしています。

当初、会長として私は、「心に寄り添う民児協」のスローガンのもと、二本の柱を立てました。

①まず一本目の柱は、「民生委員・児童委員発 災害時一人も見逃さない運動」への取組です。3年分の課題をステップ化、全委員に配布。取捨選択しながら、次のように可能なことから実践しました。

【1年目から2年目】

※部会ごと課題別に話し合い。

※NHK放映・牧之原市民児協の

取組ビデオで事前学習

※牧之原市民児協との交流会を通じて意見交換

※清水町民児協独自の色分けによる要援護者支援マップ作りとその更新(毎年)

※支援について、地区民生委員・児童委員と主任児童委員の役割の明確化

【2年目から3年目】

※町の個別支援計画と連動、福祉課の要援護者個別調査に協力

※社会福祉協議会等と連動、要援護者マップの共有方法の模索

※町民の防災意識高揚と啓発を目的に「かるたで学ぼう地域の安全」と題し、清水町民児協主催で「防災かるた」の読み札を公募(本年9月末締切)。採用作には絵札をつけ、新年以降、表彰式と「かるた大会」を計画中。

②二本目の柱は、地区民生委員・児童委員と主任児童委員、関係機関との次のようなネットワーク作りです。

※福祉課子育て係と主任児童委員との情報交換会の定例化(隔月)

※生徒指導連絡協議会で小中学校・児相・警察・健康福祉センター

等関係機関と主任児童委員間で児童生徒の課題・問題の共有化

(隔月)

※児童生徒問題窓口の一本化(これまで、学校から各委員に依頼

されていた個別調査を主任児童委員が一元管理し、委員への負担軽減と効率化を図るものです。)

※前項実現のため子育て支援ネットワークを構築、チャート化(学校長あてにチャート同封で協力要請。図2参照)

※その他、駿東郡民児協連絡会(小

山・長泉・清水の3町)を組織、輪番制で研修会を開催し、相互交流に励んでいます。

以上、微力ではありますが、今後とも、地区民生委員・児童委員と主任児童委員とが一体となった活動の取組に向けて、委員の皆さんと共に更に邁進する所存です。

静岡県清水町子育て支援ネットワーク

各機関の連携を密にし
 子育て支援をより円滑に行うためのネットワーク

(清水町民生児童委員協議会作成・施行平成20年4月1日・改定平成22年4月1日)

【行政】⇔【警察】⇔【小・中学校】【幼稚園・保育所等】

●東部児童相談所
 ●東部健康福祉センター
 ●清水町
 【福祉課・子ども育成課・保健センター】

児童虐待・DV防止連絡会

生徒指導連絡協議会

虐待防止ケースネット

窓口:役場福祉課/子育て支援係981-8215

【民児協(主任児童委員会)】

青少年問題協議会

青少年健全育成会 等

(定例会/連絡網)

【地区担当民生児童委員】

(民生児童委員活動/主任児童委員活動)

【援助・見守りの必要や課題のある児童・生徒・家庭等】

ひろば

亀さんのように



東伊豆町
民生委員児童委員協議会

鈴木 庄平

伊豆半島東海岸の我が町は、人口1万5千人足らずで、前には伊豆七島を眺め、後ろは天城連山と、自然に恵まれた風光明媚な小さな町です。民生委員・児童委員40名、主任児童委員3名で活動しています。

民児協では、安全・安心なまちづくりのため、地域住民の立場に立った相談・支援活動、関係機関との連携・協力のほか、定例会の充実、食事サービス、奉仕作業などに力を注いでいます。

定例会は、毎月第2週に委員のピアノ伴奏による民生委員の歌の合唱と、信条と児童憲章の唱和が始まります。前月の研修・部会・個人活動の報告、報告を受けての検討、外部講師による研修、地域包括センターや行政からの報告、委員同士の研鑽をしています。

町のボランティアによる高齢者などへの食事づくりは、年1回女性委員が担当し、配食サービスは委員全員で行っています。施設への奉仕作業などは、部会ごとによる窓拭きや草刈りを実施します。また、女性委員が家庭でタオルケットを利用して足拭きマットや雑巾を作り、男性委員が町外施設への草刈りや植木の剪定を行うときに一緒に届けています。入所している方々の感謝の目が、汗を流した後の達成感を一層誘うようで、また頑張ろうと思うばかりです。私たちの仕事は多岐にわたりますが、毎日毎日を地道に、奉仕の心を持って活動します。それによって一人でも喜んでくれる人がいる限り、やりがいがあるというものです。

民生委員22年間を振り返って



松崎町
民生委員児童委員協議会

深沢 貞勝

松崎町は、山、海に恵まれた自然豊かな小さな町ですが、観光地でもあります。また、この町は花とロマンの里として、休耕田を利用した大型花畑も有名です。

この地で、私は民生委員・児童委員を22年間やってまいりました。

月に1回の定例会と部会活動での顔合わせだけではコミュニケーションが十分に取れないのではないかと思います。民生委員・児童委員活動の一環として、「民生委員の歌（花咲く郷土）」に踊りを振り付け、女性民生委員有志に覚えてもらいました。9月の敬老の日に各地域のお祝いの席を訪問しては、踊りを披露しています。高齢者の皆さんも踊る人も、心が一つになります。「また来年も…」と楽しいひとときを過ごします。

ある日のこと、町で私に話し掛けてくる母娘がおりました。丁寧に頭を下げ、「あのときは、娘のことで大変お世話になりました。民生委員さんにあの証明書を書いていただいたおかげで、娘も無事に高校を卒業でき、立派な社会人になることができました。」と娘さんともども喜んで、涙ながらにお礼を言われました。このときほど、民生委員・児童委員の仕事の重要性を痛感したことはありませんでした。

これからも、22年の経験を生かして、他者から感謝され、感謝の心を伝えられる福祉を目指して、松崎町民生委員・児童委員の方々と共に、楽しい活動をしていきたいと思っています。

行政との連携を密にして



島田市
民生委員児童委員協議会

川本 明弘

島田市は、平成の大合併により旧金谷町・旧川根町と2回の合併を経験し、民児協も現在8地区、189名（うち主任児童委員16名）で活動しております。

私の属する島田市第一地区は市街地と山間部が半分半分の地域であり、地区民生委員22名、主任児童委員2名、計24名で活動しています。近年、特に感じていることは、私たちが関わる問題が非常に複雑化・多様化してきており、解決が容易でないということです。

毎月の会合会・地区定例会の中でも、行政や社協と連携を図っていますが、解決へ至るということは少ないのが現状です。

このような中で、島田市民児協では、毎年7月に各地区が抱えている問題を1〜2件に絞り、行政や社協に対し問題提起し、その回答を基に懇談する場を設けております。

この懇談会は、行政や社協の考えを聞くことができ、連携を図る上で大変良い機会となっています。今後、ますます増加すると思われる問題に対して行政・社協との連携を密にしていくことが求められていることから、この懇談会が有意義なものになることを願っております。

私が継続して実践していること

吉田町
民生委員児童委員協議会

中村 正美

私が民生委員・児童委員を拝命して、早6年を終えようとしています。当初、何をすればよいのかを自分なりにいろいろ考えましたが、これだけは毎月継続してやろうと決意し、実践していることが2つあります。

一つ目は、一人暮らし高齢者のお宅や身体障害者の方を抱えているお宅への訪問です。私の担当地区内には、そのようなお宅が16軒あり、2日から3日間をかけて月に最低1回は訪問しています。一人暮らし高齢者の方々は話が好きて、私は聞き役に徹しています。私の訪問が少し遅れますと、私の健康を心配してくださる方もいらっしゃいます。また、6年前にはお元気でたつととしていたのに、現在は認知症気味でデイサービスに通っているなど、皆さんの状況も変化しています。中には「隣組の役員が回ってきたが、高齢で引き受けることができないので困った。」というような相談まで、いろいろな相談が寄せられています。

二つ目は、毎朝の小・中学生への声掛け・交通指導です。これも継続は力なりで、地元の小・中学生から声を掛けてもらえるようになりしました。毎朝の立哨指導が楽しみです。

民生委員・児童委員の仕事内容は、多岐にわたり、限界を感じることもあります。前向きにプラス思考で対処していこうと思います。

災害時に備えて

菊川市
民生委員児童委員協議会

栗原 勝男

菊川市は、牧之原台地の西側に位置し、地盤が軟弱で地震に対しては極めて弱い地域といえます。そのため、今任期の大きな目標は、「第2次 災害時一人も見逃さない運動」に伴うリスト作りを全民生委員・児童委員が一丸となつて完成することでした。

行政・自主防災組織と協力する中で、リスト作りは民生委員・児童委員の役目と決めて、年次ごとに同意書作りと個別計画書をほぼ完成することができました。3部を作成し、自主防、行政も保管をしております。

被災した際には、第1次の支援は、自主防が対応することとします。私たち民生委員・児童委員は、「災害時要援護者班」として、本部と現場との中継連絡機関となります。

そのような対応をするときには、災害が発生した際に民生委員・児童委員とその家族の被害を最小限に食い止める努力が大切になります。災害発生時に備えたマニュアルでの家具の固定については、大半の民生委員・児童委員が対応しているわけですが、さらに一歩進めて、自宅を第一の避難場所と定め、強固な家具等を備えて置くようにし、発生直後の人的被害を食い止めることが何よりも大切なことです。

どんなに立派な計画ができていても、実践する人材が配備できなければ、十分な成果は上がらないことを再認識しているところです。

地区における立場

袋井市
民生委員児童委員協議会

原田 教司

民生委員・児童委員を受けて2期目も残り数か月となりましたが、今までに先進地視察、研修、講演会に参加し、いろいろと教えられた感があります。

また、各地の大勢の人々と出会い、意見交換や懇談をし、認識を新たにすることができたと思われまふ。

地域における民生委員・児童委員の立場を考えたとき、2つに分かれると思われまふ。一点目は、地域の人たちが民生委員・児童委員として信頼して認めている場合。二点目は、逆に、なぜあの人が民生委員・児童委員なのかと地域の人たちが疑問を持っている場合。

前者は、地域の行事、会議にできる限り参加して協力することで地域住民の信頼を得て、知名度が高くなり、民生委員・児童委員活動への理解や協力を得られることとなります。

後者は、自分は一生懸命に活動していても、今一つ、地域の皆様に理解をしていただけません。その原因は、日ごろの地域の皆さんとの付き合い方にあると思います。

自分は、俺が、私がではなく、地域の声を受けとめる気持ちを大きく持ち、いつでも相談に乗り、より良い解決方法を見出すよう協力していくのが大事かと思っています。

いずれにしても、前者も後者も、自分の立場は一步後退しても、この対応する気持ちと、相手の立場でものごとに対処する気持ちが大事かと思っています。

平成22年度(第70回)関東ブロック民生委員児童委員活動研究協議会発表要旨

法定地区民児協の活動について

静岡県民生委員児童委員協議会 副会長 小澤 幸弘

1 島田市第四地区民児協の状況

民生委員・児童委員26人
主任児童委員 2人

2 定例会の開催

○毎月、月初めに開催

事業計画の立案、行政・社協・地域包括支援センター等からの連絡事項のほか、ケース検討や意見交換を行い、活動の方向づけやお互いの勉強会の場としている。

○運営方法

- (1) 会長が主役にならずに、委員の意見に耳を傾ける。
- (2) 定例会の人数は、25人くらいが話し合いがしやすい。
- (3) 「ロの字」の席で、みんなの顔が見える環境にする。
- (4) 名札を付ける(各種会議へ出席するとき)。
- (5) 都合で欠席する場合は、副会長に連絡する。
- (6) 会場設営は、当番制で行う。
- (7) 年1回、食事を開催する(委員の親睦、意見交換)。

3 訪問活動・友愛訪問

- (1) 安否確認、見守りのため、2か月に一度は訪問活動を行う。
- (2) 行政が実施する事業(火災警報器設置のお願い、家具転倒防止事業)へ協力し、安否確認を兼ねて高齢者宅を訪問する。

4 「第2次 災害時一人も見逃さない運動」の推進

要援護者宅への訪問、災害福祉ネットワークづくり、マップづくり

5 広報活動

(1) 民生委員・児童委員の日の統一行動

- ① 行動宣言「広げよう 地域に根ざした 思いやり」の啓発
- ② 小中学校でのあいさつ運動、大型店舗でのPR活動の実施(のぼり旗、ティッシュペーパーを活用)

(2) 島田市民児協としての取組
民生委員・児童委員の日の前後にラジオ放送(FM島田)を使い、民生委員・児童委員活動をPRしている。

6 一斉改選にあたり新任委員への関わり

- (1) 新任委員が直ちに活動できるよう、速やかに研修会を実施する。
- (2) 要支援者と後任者をつなぐため、改選後、新旧委員が一緒に個別訪問する。
- (3) 仕事の内容が複雑多岐にわたるため、丁寧な引き継ぎを行う。
- (4) 福祉票などに記載された情報は、地域住民との信頼関係の中で得た情報であるため、定例会で守秘義務の遵守を徹底する。
- (5) 活動の中で分からない点や困

ったことは、定例会で先輩委員や前任者の意見を求めていく。定例会では、新任委員が意見を言いやすい雰囲気をつくる。

7 地区福祉活動への協力(第四地区福祉の会)

(1) 第一部会 生活福祉部会

- ① 一人暮らし高齢者ふれあい交流会
- ・日帰りバス旅行
- ・中学校体育大会参観支援事業
- ・寝たきり高齢者、認知症高齢者及び介護者への歳末慰問事業

(2) 第二部会 広報研修部会
① 会報「ふくちゃん」の発行(5月、5400部)

- ② 福祉施設訪問(特養「かなや」)
- (3) 第三部会 ふれあい部会
① 共同作業所通所者とのスポーツを通じての交流会(グラウンドゴルフ大会)
- ② 福祉施設、園児とのふれあい(子ども発達支援センター)
- (4) その他

① 学校福祉の会
3か所の小学校の授業参観など(年2回程度開催)

② 放課後児童クラブへの協力
主任児童委員が中心に見回り

8 会長として心掛けていること

民児協の委員一人ひとりと心のつながりを持ち、信頼関係づくりに努めている。

編集後記

今年は、政権交代後わずか8か月で内閣改選を行い、政権交代に託した国民の期待を裏切ったなどといわれ、混乱した政治情勢でありました。

経済面におきましても、一向に経済不況が終息されないのが現実だろうと思います。このような経済情勢の中で生活苦に陥っている方が増加し、また、少子高齢化が進む中では、児童虐待や高齢者の孤独死という大変悲しい、痛ましい事件が後を絶たないなど、政治・経済・社会面では、暗いニュースが多くなっております。

そのような中で、今一番重要な課題は、高齢者の孤独死の問題ではないかと思っております。この問題は、行政としても手立てを尽くして対応に迫られておりますが、この対応は、行政にすべてを委ねるのではなく、地域としても関わりを持つことが非常に大切だろと思うます。私も、地域として、地域の皆様と協力・連携した活動が続けることで、ある程度は大事に至ることを未然に防げるだろうと思っております。そこで、更に自治会や町内会組織との結びつきを強めていきたいと思っております。ところで、しずおか県民児協だよりは、今回で記念すべき20号を重ねることができました。

この民児協だよりの編集に当たっては、皆様に親しまれる刊行物となるよう、各市町の民児協の活動などを紹介しており、その原稿執筆を依頼しているところであり、各市町の民児協の皆様には、これを快くお引き受けくださり、寄稿していただいておりますことを大変有り難く思っております。お礼を申し上げます。(鈴)